

深沢地区の高齢者福祉を考える協議体

深沢会議だより

第10号 発行 2025年7月

連絡先 鎌倉市社会福祉協議会 ☎ 0467-23-1075



“ささえあうまちふかさわ”

ゆるやかに見守り合うまちふかさわ



深沢会議が設立されて、この7月でちょうど5年が経ちました。

“ささえあうまちふかさわ”として「ゆるやかな見守り活動」を中心に、地域の皆さまと活動しています。2ヶ月ごとに開催される会議では、メンバーである深沢地域の福祉に携わる方々が集まり、各自治町内会で行われているゆるやかな見守り活動について情報共有、意見交換をしています。この深沢地区で“誰もが安心していつまでも暮していく”ためには、どのような取り組みが必要なのか、そして地域にはどのような課題があるのか、話し合いを重ねています。

今後も皆さまのご意見に耳を傾けて、ゆるやかな見守り活動に繋がっていきたいと考えています。引き続き、多くの自治町内会のご協力をよろしくお願いいたします。

ゆるやかな見守り活動って？ 向こう三軒両隣、ご近所同士お互いに気にかけて、ゆる〜く繋がる、そして気になることは相談する、そんな取り組みです。日ごろからのご近所同士のあいさつや声かけは、いざという時に役立つものです。

自治町内会紹介①

笛田町内会の巻

今号より、深沢地区の自治町内会に活動の紹介をしていただきます。
第1回目は笛田町内会です！

当町内会は笛田1丁目～3丁目を区域とし、西は笛田リサイクルセンター、東は市営笛田住宅、南は鎌倉山のふもと夫婦池までの範囲です。会員数は約660世帯です。

町内会活動としては登校児童の見守り、夜間防犯パトロール、夏休みのラジオ体操、クリーンステーションのゴミ出し指導、手軽なスポーツなどを行っています。

最近は住民のつながりや世代間交流が大切と考え、積極的に子ども会と一緒にイベントを開催しています。正月には餅つき会を行いました。若いお父さんや子ども達が歓声を上げながら餅をつき、つきたての餅を食べて住民同士で楽し気に語らう光景は、地域のつながりが深まっていく期待感を持たせてくれます。



写真左側、2つの白でもちをついています

裏面もあります→

「自主防ふかさわ」勉強会が開催されました

6月7日（土）に第1回深沢中学校区自主防災連絡会議（自主防ふかさわ）の勉強会が深沢学習センターで開催され、各町内会長や自主防災の担当者など48名が集まりました。勉強会では、かまくら防災士ネットの江上健氏による「地域防災」についての講演、その後は自主防ふかさわの設立の経過と今後の活動についての説明、そして代表して3つの町内会から災害時の無事確認など、自主防災組織の活動の発表がありました。

自主防ふかさわは、深沢中学校区（深沢小学校区、富士塚小学校区）の各自治町内会の自主防災組織の連絡会議です。いつ起こるかわからない自然災害に対して、自治町内会の枠を越えて地域全体で連携し、横のつながりを深め、顔の見える関係づくりを行いながら地域防災の推進を図っていくことが目的です。

今後の活動としては、毎年行われている校区の防災訓練の企画、また土砂や河川などの災害リスクごとに分かれての取組み、深沢中学校の避難所運営マニュアル作成などを想定しています。



防災士の江上氏
による講演

断水したら、これだけは。

7月2日（土）未明、市内浄明寺の水道管漏水による断水が鎌倉地区の広範囲でありました。断水した場合、私たちはどのような対応をすればいいのでしょうか。トラブルを避けるポイントを3つあげます。

① 水道の元栓を閉める。

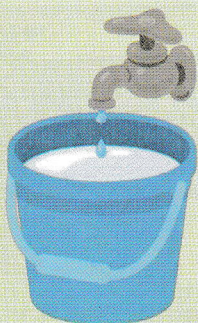
泥や濁った水が水道管に入ってくるのを防ぎます。元栓は水道メーターの横などにありますので確認しておきましょう。

② 生活用水を備える。

トイレを流すときなど生活用水が必要になります。日頃からの準備が大切です。

③ 給水所にはリュックで。

水を入れたタンクはとても重いです。リュックにビニール袋を重ねて入れて代用したり、キャリーバックの活用を。



※大地震の場合は下水管が壊れる可能性が高く、
トイレなど水が流せないことが想定されます。
災害用トイレの備蓄など、準備が必要です。



背負える給水袋